

スギの葉入りのど飴を商品化 町の特産品にと商工会青年部の有志5人

和水町商工会青年部の有志5人が、地元のスギを生かそうと、杉の葉を練りこんだのど飴を商品化して売り出しました。

ただ捨てられている葉を有効活用できないかと約1年6カ月前から試作を重ねられ、乾燥させた葉を煎じて飲む事をヒントに、スギの葉を練りこんだペパーミント味の飴を作りました。

有志グループの櫻井謙臣さん(用木)は「町の特産品を作って和水町を盛り上げていきたい。」と話してくれました。

現在は、「緑彩館」や「菊水ロマン館」、町内のスーパーなどで販売中です。



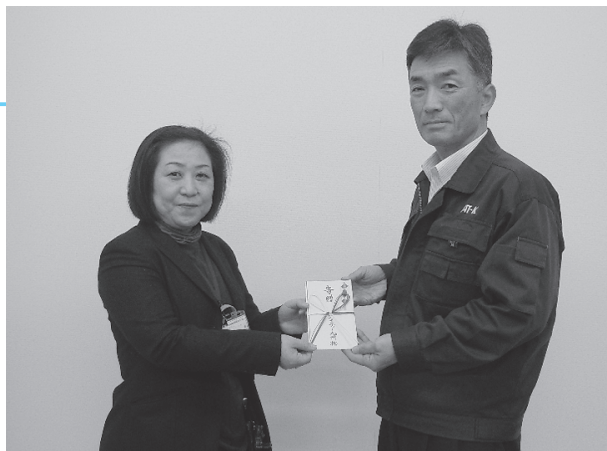
杉花粉のど飴

自動販売機に募金システム ～社会福祉協議会へ寄付～

12月21日(金)、エイティー九州株式会社(南関町下坂下)から和水町社会福祉協議会へ金一封の寄付がありました。

エイティー九州株式会社は、自動車部品などの鋳造から加工まで一貫生産を行っている企業です。社内に募金機能付き自動販売機を設置しており、そこで集まったお金を寄付していただいています。

北島哲也社長は「これからもできる限り寄付を続けていきたい」と話をしてくださいました。



北島社長から寄付

熊日緑のリボン賞 ～伝統工芸みかわ手漉き和紙保存会が受賞～

この度、『伝統工芸みかわ手漉き和紙保存会』の皆さんが、「熊日緑のリボン賞」を受賞されました。この賞は、地域で奉仕活動などに長年取り組んでいる団体や個人に贈られるもので、手漉き和紙保存会の皆さんの地道な活動が評価されたものです。

手漉き和紙保存会は、和水町の伝統工芸である手漉き和紙を後世に伝えるため活動されており、地元の小中学生の卒業証書作成を始め、多くの人が手漉き和紙を体験されています。

特に近年は、観光PRとして、様々なイベントにも参加され、和水町、ひいては熊本県の魅力の一つとして手漉き和紙をPRされています。

これからも、皆さんのますますのご活躍を期待します。



みかわ手漉き和紙保存会の皆さん

金栗四三氏の後に続こう! なごみっ子! 「第12回金栗四三杯なごみ子ども駅伝大会」

12月22日(土)、町陸上競技協会主催による「金栗四三杯なごみ子ども駅伝大会」が、全6区間 約8.6kmの三加和公民館周辺の特設コースにて開催されました。

町内の小学校から16チームが元気に出場。小学4年生～6年生の子どもたちが、保護者や地域の人たちの温かい声援を受けながら、友情のタスキをつなぎました。

主な成績は次のとおりです。

【総合の部】

優勝 菊水東小 東小チームA

(選手：一森聖史、富田愛梨、木部 輝、吉本瑞輝、中嶋佑希、川原美絃)

2位 菊水中央小 C5Kids

(選手：相澤俊輔、船津佳蓮、池田宗龍、東 葉月、亀井康成、坂井俊介)

3位 緑小 グリーンファイターズA

(選手：竹下大貴、淵上雄馬、竹下弘祐、武田勇輝、竹下裕貴、松尾実咲)

【区間賞】

●男 子

1区 相澤俊輔(菊水中央) 2区 浦田楓馬(菊水中央) 3区 柿原真輝(春富) 4区 坂本爽馬(東) 5区 亀井康成(菊水中央) 6区 坂井俊介(菊水中央)

●女 子

1区 古川 凪(緑) 2区 船津佳蓮(菊水中央) 3区 松尾彩花(緑) 4区 東 葉月(菊水中央) 5区 中嶋佑希(東) 6区 松尾実咲(緑)

【持久走の部】

1位 江藤昂太(菊水中央) 2位 北川颯真(菊水中央) 3位 北川ほのか(菊水中央)

第89回「箱根駅伝」 坂梨町長から服部翔大選手(日本体育大学)へ 最優秀選手賞「金栗四三杯」を授与

正月の風物詩として定着した東京箱根間往復大学駅伝競走(通称:箱根駅伝)は、和水町名誉町民であり、「日本マラソンの父」と称される故・金栗四三氏が創設された大会です。

本町では、金栗氏の名前を箱根駅伝の歴史に刻むとともに、町のPRになればと考え、平成15年に関東学生陸上競技連盟へ申し出を行った結果、第80回大会から最優秀選手賞が設けられ「金栗四三杯」の贈呈がスタートしました。「金栗四三杯」のカップは、金栗氏が1911年ストックホルムオリンピック国内予選会で、当時の世界最高記録を塗り替えて優勝し受賞された時のカップを複製したもので、毎回箱根駅伝の閉会式で和水町長から授与されています。

今年開催された第89回大会では、往路を26年ぶりに制した日本体育大学が、復路も安定した走りで行前覇者の東洋大学を振り切り、見事30年ぶり10度目の総合優勝を果たしました。最優秀選手賞「金栗四三杯」は、山盛り5区で先頭から1分49秒の差を逆転し区間賞を獲得し、総合優勝に大きく貢献した服部翔大選手が受賞されました。



坂梨町長から「金栗四三杯」を授与された服部選手